

## まえがき

多国間協力は規範の定立の観点からも、テロ、海洋の安全保障、自然災害からサイバー安全保障や宇宙までを包含する非伝統的安全保障問題に対処するため、ますます不可欠になっている。しかし同時に、中国がその増大する経済・政治・軍事力によって米国の指導的役割に挑戦しようという意味で、アジア・太平洋地域は米中間のパワーバランスの根本的な変化に直面している。両大国間の潜在的な競合を背景に、日本など他の国々は海洋・領土問題に対処する観点から、この生起しつつある新たな戦略環境への適応を迫られている。さらに当該地域では、2012年以來の各国の政権交代によって、選出された指導者たちが新たな安全保障展望を形成することになろう。

こうした背景により、2013年の防衛研究所主催安全保障国際シンポジウムは、米中のみならず、日、ASEAN、豪、印、韓、露といった地域諸国の安全保障展望につき、比較の観点からその共通点と相違点を探ることを目的とした。安全保障展望の差異を考慮しつつ、当シンポジウムはその差異を克服する目的に基づく多国間協力の可能性を探った。ADMM プラスや ARF といった ASEAN 中心の枠組みを念頭に置きつつ、当シンポジウムにより、他の地域枠組みとの比較の観点を提供することによって汎地域的、分野横断的視点に基づく議論が発展する可能性がある。

当報告書は2013年11月12日に開催された防衛研究所主催安全保障国際シンポジウムに提出され、会議後加筆修正された論文から構成される。当会議には上記8カ国から著名な安全保障の専門家を招へいた。当報告書にある見解は筆者個人のものであり、防衛研究所や招へい者の所属する機関の見解ではない。筆者の多大なる貢献に感謝したい。

防衛省防衛研究所  
統括研究官  
金子 讓